

C-33 成人女子の肩部を中心とした形態の被服構成学的一考察
ノートルダム女大文 村田庸

目的 肩部は、被服の支持部であり、構造線となる部位である。肩部の形態は、肩の傾斜度、鎖骨の傾斜、肩部の筋肉および後面の脂肪沈着状態に影響される。そこで今回は、単写真による撮影を行い肩部を中心とした形態の特徴を観察した。

方法 体格の概要を把握するために身長、体重、胸囲の3項目を計測した。写真撮影は、肩部を裸出した状態の立位正常姿勢で、前面、左側面、後面の合計3枚である。対象は大学女子学生150名である。写真計測は、正中線を基準にして行った。すなわち左肩傾斜角度、左右肩傾斜角度差、左鎖骨傾斜角度、左右鎖骨傾斜角度差、肩峰点と頸窩点間距離、等である。

結果 身長、体重、胸囲、肩傾斜角度、鎖骨傾斜角度、肩峰点と頸窩点間距離各々の相関では、肩傾斜角度と鎖骨傾斜角度にのみ低い相関がみとめられた。肩部傾斜のシルエット及び肩峰点と頸窩点の距離には著しい個人差がみられる。肩部を中心とした形態は、骨格、筋肉、脂肪の沈着状態に影響されるので、その形態の個性は強い。